

墳丘の形から当時の政治的な力関係を推察してみよう。

I-12-①

4世紀には前方後方墳を採用する豪族がかなりいたのが、4世紀後半以降には逆に前方後円墳を採用する豪族が極端に増えることが、これまでの研究によりわかっています。これは、現在の奈良や大阪付近を中心とする大和朝廷の勢力拡大が原因と言われています。

5世紀には、それぞれの地域で一番大きい古墳、それも前方後円墳が築かれていることから、前方後円墳は当時において優勢だった大和朝廷のシンボルだったのでしょう。

大和朝廷とは：

4世紀ごろ、大和(現在の奈良)を中心とする地域には、特に大きな前方後円墳がつくられており、この地域に強力な国ができていたと考えられています。この国を大和国家、その政府を大和朝廷とよんでいます。

I-12-①

古墳名	墳形	全長	築造時期	所在地	備考
藤ノ原(古墳)	前方後円墳	全長 23m	5世紀前半	名取市藤ノ原	大和朝廷の勢力拡大を示す
小塚古墳	前方後円墳	全長 14.2m	5世紀前半	名取市小塚	大和朝廷の勢力拡大を示す
...

I-12-④

古墳名	墳形	全長	築造時期	所在地	備考
雲神山古墳	前方後円墳	全長 19.5m	5世紀前半	名取市雲神山	大和朝廷の勢力拡大を示す
...

I-12-②

古墳名	墳形	全長	築造時期	所在地	備考
...

古墳名	墳形	全長	築造時期	所在地	備考
...

I-12-③

古墳名	墳形	全長	築造時期	所在地	備考
...